

生産情報

農業振興課 二上 拓哉



○りんご（8/15～9/15）

管内のりんごの肥大は、8月1日現在でふじが59.6ミリと、昨年より1日ほど早く経過しています。

管内のりんご肥大状況（8月1日調査）

	湯 口	紙漉沢	相 馬	平 均	前年比	平年比
つがる	65.3	68.1	68.4	67.3	100.7%	102.1%
王 林	63.6	59.1	58.2	60.3	102.0%	102.0%
ふ じ	60.8	61.1	57.0	59.6	101.5%	102.4%

※単位は（mm）

○見直し摘果をしましょう

品質向上に向けて、成らせすぎとなっている部分の樹上選果を徹底しましょう。

また、葉摘みの際でも果形が悪い果実は積極的に摘果し、適正着果に仕上げてください。

※黒星病の罹病果について

摘果した黒星病の罹病果は、来年の発生密度を増やさないためにも、摘み取った果実は、必ず園地内で焼却するか、土中に埋める等の処理を行ってください。

○適期収穫・早期入庫のお願い

「つがる」や「きおう」などの早生種では、晩生種と異なり熟度が揃いにくく、収穫適期の判断が難しいため、カラーチャートや各フルツステーションに用意する収穫目安のサンプルを参考に適期収穫に努めてください。

また、収穫後は速やかに入庫し、園地に長期間保管しないように努めて下さい。収穫後の果実は呼吸をしており、気温が高いほど呼吸量は多くなります。適期収穫をしても、早期に入庫して果実の温度を下げないと軟質や油上がりなどの品質低下を招きます。呼吸量は

冷蔵（0℃）により1/10、CA貯蔵で1/20にまで抑えることが出来ます。鮮度重視のリンゴ出荷にご協力をお願いします。

○水稲

登熟期に入ります。高温時には時々水の入替えを行い根腐れ防止に努め、低温時には深水にして登熟促進に努めて下さい。
カメムシ被害軽減のため、9月に入るまでは畦畔の草刈りは実施しないようにしてください。

薬剤の使用基準一覧

殺菌剤	収穫前基準	使用回数	殺虫剤	収穫前基準	使用回数
オーソサイド（水）	前日	6	サイハロン（水）	7日	3
ストライド（顆水）	前日	3	バイスロイドEW	7日	4
ベフラン（液）	前日	3*	イクズチWDG	前日	2
アリエッティC	前日	3	モスピラン（顆水）	前日	3
			ダントツ（水溶）	前日	3
			ファイブスター	前日	—
			フェニックスF	前日	2
			サムコルフ	前日	3

※開花期以降

散布計画

回数	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備 考
12	500%	8月下旬	ベフラン オーソサイド フェニックス カルシウム剤	1500倍 800倍 4000倍	○止め薬は早くても8月27日以降に散布する。 ○8月下旬～9月上旬に長雨が見込まれる場合は、スズ斑病対策として9月中旬をめどに効果のある薬剤を散布する。（ただし、前回の散布から15日以上間隔が空かないようにする。）
特散	500%	9月中旬	ストライド	1500倍	○イミノクタジンを含む農薬の総使用回数は開花期以降3回以内（ベフラン、ダイパワーなど）。 ○キャプタンを含む農薬の総使用回数は6回以内（アリエッティC、ダイパワー、オーソサイドなど）。

りんご病害虫防除暦（第12回目・特別散布）※生態の早まりにより散布時期に若干のズレがあります。